

ビブリオバトル 書評合戦のルール

発表参加者のことを
バトルといいます。

1 おすすめ本を
持って集まる。



2 面白さを5分間でアピール後、
みんなの質問タイム2~3分間。



3 読みたくなった本に投票、
チャンプ本を決定する。

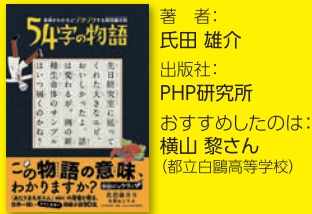


【ビブリオバトル公式ルール】

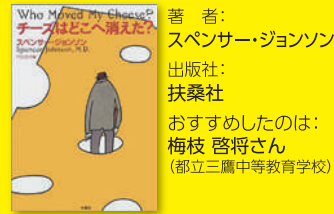
1. 発表参加者が読んで面白かった本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

東京都大会ベスト16 出場者のおすすめ本

チャンプ本 54字の物語



準チャンプ本 チーズはどこへ消えた?



ベスト4 ちよっと一杯のはずだったのに



ベスト4 記憶屋



- 数に強くなる 畑村洋太郎 著 (岩波書店)
- 死神の精度 伊坂幸太郎 著 (文藝春秋)
- 収容所(ラーゲリ)から来た遺書 辺見じゅん 著 (文藝春秋)
- かがみの孤城 辻村深月 著 (ポプラ社)
- 曾根崎心中 角田光代 著 (リトル・モア)
- 世界から猫が消えたなら 川村元気 著 (小学館)

- 無駄に生きるな熱く死ぬ 直江文忠 著 (サンクチュアリ出版)
- 蘇る変態 星野源 著 (マガジンハウス)
- 幸福な生活 百田尚樹 著 (祥伝社)
- 屍人荘の殺人 今村昌弘 著 (東京創元社)
- 舟を編む 三浦しをん 著 (光文社)
- 書物狩人 赤城毅 著 (講談社)

ビブリオバトルに関する本

■ ビブリオバトル入門



監修: 吉野 英知
須藤 秀紹
大谷 裕
谷口 忠大

編著: ビブリオバトル普及委員会
出版社: 情報科学技術協会 (2013年)

■ ビブリオバトルハンドブック



編著: ビブリオバトル普及委員会
出版社: 子どもの未来社 (2015年)



公益財団法人 文字・活字文化推進機構

ホームページ <http://www.mojikatsuji.or.jp/>

発行 2019年3月

東京都大会 あなた次第で好きな本が チャンプ本の栄冠に輝く

東京予選を勝ち抜けば全国大会への扉が開く

校内予選

まずは各校の代表を決める戦いです。都内200を超える学校で校内予選が行われ、高校生書評合戦(ビブリアバトル)の幕は切って落とされました。

東京都大会(1回戦・2回戦)

●日時:平成30年9月30日(日)9:00~17:00
●会場:東京都立戸山高等学校 ●講演:「青春と読書」島本理生さん
199校から325名もの代表バトラーがエントリーしました。1回戦を突破したのは64人。16会場に分かれて計4回(午前と午後2回ずつ)行われたビブリアバトルでチャンプ本を獲得したバトラーたちです。さらに、4人×16会場で2回戦が行われ、16人が準決勝に駒を進めました。



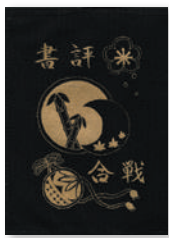
■準決勝進出の16人

■作家・島本理生さんの講演

東京都大会(準決勝・決勝)

●日時:平成30年10月28日(日)13:00~17:00
●会場:東京都庁 第一本庁舎5階大会議場、レセプションホール

高校野球なら、府中市民球場や江戸川区球場など東京各地で熱戦を繰り広げ、勝ち残ったチームが神宮球場での決戦に臨みます。ビブリアバトルの舞台は都庁です。バトラーは325名から16名に絞られました。4ブロックに分かれて準決勝。そこで一番多くブックカバー(デザインは都立工芸高等学校)の挙がった4人が決勝進出。東京都大会の最後にふさわしいハイレベルなバトルの結果、チャンプ本には都立白鷗高等学校2年の横山黎さんが紹介した『54字の物語』(氏田雄介 著/PHP研究所)が、準チャンプ本には都立三鷹中等教育学



■投票に使われた
文庫本用ブックカバー

校4年の梅枝啓将さんが紹介した『チーズはどこへ消えた?』(スペンサー・ジョンソン 著/扶桑社)が選ばれ、「本の甲子園」行きの切符を手に入れました。

全国高等学校ビブリアバトル2018に出場した横山さん(左)は「全国のレベルはすごい高かったですね、梅枝さんは「勝ち負けにこだわらず、本の良さを伝えたい」と話してくれました。



■横山さん

■梅枝さん

全国大会 本の甲子園

全国の精鋭45代表が
頂点を目指す



全国高等学校ビブリアバトル2018決勝大会 REPORT ●日時:平成31年1月20日(日)12:00~17:30 ●会場:よみうり大手町ホール(東京都千代田区)

◆舞台は最終決戦へ
45名が7会場に分かれて予選を行い、そこでチャンプ本を獲得した7名が決勝戦のステージへ。

遠藤 俊介さん

◆バッターボックスに立つ!
5分間を使い、おすすめ本の紹介をします。まさに一球入魂です。

林 仁さん

◆トークセッション
左から作家・原田マハさん、作家・朝井リョウさん、弁護士・三輪記子さん。「本に関する忘れられない思い出」を語っていただきました。

廣部 太一さん

◆トークセッション
左から作家・原田マハさん、作家・朝井リョウさん、弁護士・三輪記子さん。「本に関する忘れられない思い出」を語っていただきました。

佐久間 諒さん

◆トークセッション
左から作家・原田マハさん、作家・朝井リョウさん、弁護士・三輪記子さん。「本に関する忘れられない思い出」を語っていただきました。

古屋 慎人さん

◆トークセッション
左から作家・原田マハさん、作家・朝井リョウさん、弁護士・三輪記子さん。「本に関する忘れられない思い出」を語っていただきました。

井上 敦史さん

◆トークセッション
左から作家・原田マハさん、作家・朝井リョウさん、弁護士・三輪記子さん。「本に関する忘れられない思い出」を語っていただきました。

安達 聖さん

◆グランドチャンプ本
『最後のトリック』
深水黎一郎 著/河出書房新社
遠藤 俊介さん 静岡県立富士宮西高等学校 2年

「皆さんに2つだけ質問させて下さい。1つ目、皆さんは今までに人を殺したことがありますか?」という、ふざけたような問いかけで冒頭から笑わせられます。「この本を読んだことがあるって人は?」観客に数人いました。「僕が言えることは1つだけ、この本で殺されてしまう人物を殺したのは僕と、ここにいる数人だけということです」

観客はポカンとしますが、だんだん彼に引き込まれていきます。「最初は『絶対犯人にならない』と思いながら僕も読んでいました。今の皆さんと同じように。でも、読み終えた時には犯人になってしまう。だから、ちょっとだけ負けた気がします。トリックが成立してしまうことについて、『殺人犯にはなりたくない』と言っていた友だちも、最後は犯人になりました。全員犯人。読めば分かります。皆さんも殺人犯になって下さい」

◆準グランドチャンプ本
『失われたドーナツの穴を求めて』 芝垣亮介、奥田太郎 編/さいはて社
林 仁さん 東京都・昭和鉄道高等学校 2年

◆ゲスト特別賞
『探偵が早すぎる』 井上真偽 著/講談社
佐久間 諒さん 大阪・関西創価高等学校 1年

◆マイナビ賞
『どちらかが彼女を殺した』 東野圭吾 著/講談社
廣部 太一さん 千葉県立国分高等学校 2年

◆投票に使われた
文庫本用ブックカバー

◆いよいよ投票!
うちわが投票に使われました。会場の観戦者ら約500人が一番読んでみたいと思った本に1票を投じます。全国制覇の夢を叶える本、「ぜひ読んでほしい」という熱意が一番伝わった人が決まります。

◆いよいよ投票!
うちわが投票に使われました。会場の観戦者ら約500人が一番読んでみたいと思った本に1票を投じます。全国制覇の夢を叶える本、「ぜひ読んでほしい」という熱意が一番伝わった人が決まります。

